

林芙美子における「満洲」の語り方

戦前から戦後へ



TOHOKU
UNIVERSITY



講演者

曾婷婷 (ソ テイテイ)

中国吉林大学外国語学院 副教授

東北大学文学研究科日本文学研究室 客員研究員

研究分野: 林芙美子をはじめとする日本近代女性文学

著書: 『近代日本〈国家〉視野での林芙美子文学研究』(2021年)

多様化する日本植民地研究に内在する課題として、「文学」が大きな担い手となっている。植民化プロセスの中の個人の生、そこに込められる日常的庶民感情・生活風景の断片というような小さい情景を、「文学」は為政者レベルの言説とは切り分けられたかたちで語ってきた。同時に、それはまた帝国主義的植民地の大きな物語へと積み重ねていくことを可能にしている。林芙美子は戦前から戦後にかけて「満洲」の作品系列を作り出している。そこにジェンダー・階級・越境・文化統制などにかかわる多層的語り方が織り込まれており、日本本土／「満洲」、戦前／戦中／戦後という空間的・時間的総体性も紡がれている。本報告はこのような林芙美子の「満洲」言説に生み出される植民地メカニズムを考察することを目的とする。



2024年

6月27日(木)

16:20～18:00

場所／東北大学文学研究科棟1階135教室(対面のみ)

発表言語／日本語

主催／東北大学日本学国際研究クラスター、日本学国際共同大学院

事前申込要(参加費不要)

6/24 15:30までに以下URLからお申込ください。

URL: <https://forms.gle/ceMFLUsE3RQif7j96>



東北大学
日本学国際共同大学院
International Graduate Program
in Japanese Studies